


| | | | |
|---------------|-----|---|-------------------|
| 分野 | 51 | 環境共生 | 通番 119 |
| 施策 | 511 | 西山の整備 | |
| 5年後の目標 | | 市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。 | |

| 概要 | | | | | | | | |
|--|----------------------------------|--|------|---|---|--------|-----------|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 西山における森林保全活動の 推進・啓発事業 | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 1,500,000 | 農林振興課 |
| | | | 一般 | 6 | 2 | 1 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | | |
| 改定した西山森林整備構想に基づき、具体的な森林整備方針を定め、産官学民連携の組織である西山森林整備推進協議会と連携して、ボランティア運動と森林保全活動の推進と啓発を促進します。 | | | | | | | | |


| 平成30年度の取組 | | | | | | | |
|--|---------------|-------------|----|--|----|----|----|
| D (取組) | 指標 | 森林ボランティア団体数 | | | | 単位 | 団体 |
| | 現状 (計画策定時) | 年度 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| | | 目標 | 22 | 22 | 23 | 23 | 24 |
| | 21(平成26年度) | 実績 | 22 | 23 | 23 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「西山森林整備構想」に基づき、西山森林整備推進協議会と連携して、京都モデルフォレスト運動による森づくりへの支援や、自然環境調査、環境教育事業など、関係団体や関係機関が実施する西山での活動への支援を行いました。 ・9月の台風により西山全体で大きな被害が発生しましたが、例年、実施しているボランティア養成講座および活動体験会を規模を縮小するかたちで開催することで、ボランティア活動に関心がある人が活動に入りやすい環境づくりのための調整を行いました。 | | | | 森林ボランティア養成講座  | | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | | |
|-------------------|------|---|------|---|-----|
| 平成30年度の達成状況 | | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | | 評価指標の傾向・トレンド | 対応員 |
| | | | — | | — |
| C (評価) | 達成度合 | A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・森林ボランティア養成講座などの啓発事業を継続的に実施することで、森林整備活動に関心を持つ人と既存の団体との関係性の構築することができましたが、結果として新規の参画団体の活動開始には至らず、団体数の増減はありませんでした。 | |
| | 課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体において、会員の高齢化と後継者不足が課題となっています。 | | | |

| 目標達成に向けての次年度以降の対応 | |
|-------------------|--|
| A (行動) | 方向性 |
| | 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 <ul style="list-style-type: none"> ・西山森林整備推進協議会の組織が成熟し、産官学民が連携して森林整備に関する啓発事業は目標通りに進行しています。今後も引き続き、ボランティア養成講座やイベント出展などの啓発事業を通じて、各団体への新規加入及び新規団体の設立を呼び掛けていくなど、活動を継続していくための支援を行っていきます。 |

| | | | |
|---------------|-----|---|-------------------|
| 分野 | 51 | 環境共生 | 通番 120 |
| 施策 | 511 | 西山の整備 | |
| 5年後の目標 | | 市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。 | |

| 概要 | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--|------|---|---|--------|------------|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 西山における森林整備推進事業 | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 22,028,793 | 農林振興課 |
| | | | 一般 | 6 | 2 | 1 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | | |
| 西山の森林機能を維持・回復させるとともに、生物の多様性を保持するため、西山森林整備構想を基本として環境面や公益的観点に配慮した整備を継続的かつ適正に実施します。 | | | | | | | | |

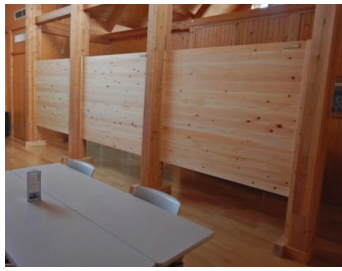
| 平成30年度の取組 | | | | | | | |
|--|--------------------|--------------|-------|---|-------|-------|-------|
| D (取組) | 指標 | 西山森林整備面積(累計) | | | | 単位 | ha |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| | | 目標 | 280.0 | 288.0 | 296.0 | 304.0 | 312.0 |
| | 261.68 (平成26年度) | 実績 | 282.0 | 295.0 | 301.1 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市森林組合に業務委託を行い、森林整備を合計6.09ha実施しました。 ・人工林については、2.19haの間伐、0.49haの除伐を実施し、併せて間伐した材を活用するため84mの施業路を開設しました。二次林については、2.22haの改良を行いました。竹林については、拡大する竹をライン状に伐採し最前線を押し戻す1.19haの線的全整備と、過去の線的全整備地で新たに発生したタケノコ等を伐採する維持管理を実施しました。また、9月に発生した台風による風倒木の伐倒処理を58.65㎡実施しました。 ・ふるさと納税を活用し、カブトムシやオオムラサキなど多様な生き物が暮らす森を再生する「京都西山再生プロジェクト」では、既存の植樹地の下刈り及び台風による風倒木で倒壊した防護柵の復旧を行いました。 | | | | 拡大竹林線の整備 整備区域  | | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | |
|-------------------|--|--------------------------------|---|--|
| 平成30年度の達成状況 | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応頁 |
| | | 西山の森林整備面積・整備率 | これまで継続的に進めてきた森林整備活動により、西山の有する多面的な機能が徐々に回復しつつある。 | 209 |
| | 達成度合 | A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | 達成状況 | ・9月の台風により西山全体で大きな被害が発生しましたが、平成27年4月に改定された「西山森林整備構想」と併せて作成されたゾーニング資料を基本的な指針として、風倒木の伐倒処理など災害復旧を踏まえた森林整備を進めた結果、目標を達成することができました。 |
| 課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・西山森林整備構想の整備方針に基づいた西山に相応しい整備方法を継続的に検討する必要があります。 ・森林の水源涵養機能の低下や土砂災害の危険性が増すため、拡大竹林の整備を引き続き行う必要があります。 ・森林整備の円滑な推進や資源の循環利用に資するため今後も引き続き間伐材の搬出を考慮した施業路の整備が必要です。 ・被災した森林を放置しておくことで、台風や豪雨によりさらなる被害が拡大するおそれがあります。 | | | |

| 目標達成に向けての次年度以降の対応 | | |
|-------------------|------------------|---|
| A (行動) | 方向性 | 対応策等 |
| | 1: 計画通りに進めることが適当 | <ul style="list-style-type: none"> ・過去に実施した森林整備地の検証を行うとともに、西山森林整備構想を指針として西山に相応しい森林整備方法を継続的に検討し、持続可能な森林整備を実施します。 ・森林環境税やふるさと納税など様々な財源を活用することで森林整備費の確保を目指します。 ・森林所有者の合意を図りつつ、施業路の整備を行うことで、材の搬出と利用を推進します。 ・被害が発生した森林において災害復旧を踏まえた森林整備を実施します。 |

| | | | |
|---------------|-----|---|-------------------|
| 分野 | 51 | 環境共生 | 通番 121 |
| 施策 | 511 | 西山の整備 | |
| 5年後の目標 | | 市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。 | |

| 概要 | | | | | | | |
|--|-------------------|--|------|---|--------|-----|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 木竹資源の利活用事業 | | 会計 | 款 | 項 | — | 農林振興課 |
| | | | - | - | - | | |
| 事業の概要 | | | | | | | |
| 市内で伐採された木材を公共建築物や内装材、調度品、薪などへ多種多様な利用を図るとともに、竹林整備により発生した竹材を竹粉や竹チップとして有効利用を進め、資源循環利用の仕組みづくりを推進します。 | | | | | | | |

| 平成30年度の取組 | | | | | | | |
|--|----------------|-----------------|------|------|--|----|----------------|
| D (取組) | 指標 | 竹粉・竹チップの活用量(累計) | | | | 単位 | m ³ |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| | 平成27年度 新規事業 | 目標 | 36 | 52 | 68 | 84 | 100 |
| | | 実績 | 64.3 | 74.1 | 74.1 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 公共施設を管理する関係部署に、防草材としての竹チップ活用の働きかけを行った結果、累計74.1m³の竹チップを導入することができました。 平成27年度実績：産業文化会館20m³、西山公園2m³ 平成28年度実績：西代里山公園20m³、東第二浄水場19.8m³、西山公園2.5m³ 平成29年度実績：東第二浄水場9.8m³ また、木材の利用実績として、平成30年度は、環境フェアの記念コースターや西代里山公園の間仕切りとロッカー、北開田児童館のテーブル、京都西山再生プロジェクトのネームプレート、市議会の議員名札、西山森林整備推進協議会のバッジ、DIYワークショップの原材料、公共施設等に設置するベンチ10基分を納品することができました。 | | | | | 西代里山公園管理棟 間仕切り  | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | | | |
|-------------------|--|--------------------------------|------|---|-----|---|
| 平成30年度の達成状況 | | | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | | 評価指標の傾向・トレンド | 対応員 | |
| | | — | | | — | — |
| | 達成度合 | A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度に補助金を受けて竹チッパーを導入した京都中央農業協同組合と連携し、伐採竹のチップ化を推進するとともに、公共施設を管理する関係部署へ防草材として竹チップ導入の働きかけを行いました。結果として新規の導入には至りませんでした。 森林整備で発生した間伐材を森林環境税などの財源を活用し、公共施設の調度品やイベントの記念品などに利用することができました。 | | |
| 課題等 | <ul style="list-style-type: none"> 公共施設において防草材としての竹チップの導入を継続していく必要があります。 敷設してから3年目以降など、長期的に防草効果を持続させる手法について検証を継続していく必要があります。 竹チップや竹粉の他に、竹材の新たな資源としての利活用方法を今後も検討していく必要があります。 | | | | | |

| 目標達成に向けての次年度以降の対応 | |
|-------------------|--|
| 方向性 | 対応策等 |
| A (行動) | 1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> これまでの実績を足掛かりとし、敷設の可能性のある公共施設等に防草効果のPRを行い、さらなる普及・啓発に取り組んでいきます。 竹チップを敷設した公共施設について継続して経過観察を行います。 |